

農業と科学 1977 1

CHISSO-ASAHI FERTILIZER CO LTD



独自の製品を開発して

農業の発展に貢献を期待

チッソ旭肥料株式会社 三戸二郎
代表取締役社長

新年おめでとうございます。新しい年を迎えるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当社がチッソ株式会社と旭化成工業株式会社の輝かしい歴史と伝統をもった肥料部門を統合、新発足致しましてから既に7年有余経過致しました。この間、当社の肥料事業の発展につきまして、皆様方から温かいご支援をいただきましたことを、厚く御礼申し上げます。

この7年間、世界の政治経済は48年の石油ショックを契機として大きく揺れ動きました。農業界、肥料業界にとりましても、まさに試練の激動期であったといえます。

水田の減反政策への急転回、それを逆なでするかのように入れ替わりを揺さぶった地球的食糧危機到来論の黒い陰影、それを克服する方途としての食糧自給率向上論の台頭など、国内農業の重要性を再認識すべきだとする動き、さては石油をはじめとする資源ナショナリズムの胎動など、これらの動向が肥料原料に与えた深刻な経済的影響は、誠にめまぐるしく、幾多のむずかしい問題を引き起しております。

しかし、日本の経済事情が今後どのように変化していくと、農業界に要請される基本的構想は「食糧の安定供給」の確保であって、これは古今を通じて不変の鉄則だと思えます。

このためには、栽培技術の向上・開発をはかるとともに、「農家経済をより豊かにする」ことが必要でありましょう。本年は農業生産者の皆様はじめ農業関連事業に携わる者全員が、明るい見通しをもって活躍される年であって欲しいと願っている次第であります。

当チッソ旭肥料株式会社は、技術陣の多年にわたる研究努力によりまして、緩効性窒素肥料として「CDU」を、また硝酸系高度化成肥料として「燐硝安加里」を普及してまいりましたが、これらは、いずれも肥効、施肥の合理化、作物の品質向上のため、「土壌を荒さない」

ことを念願とした、極めてユニークな特徴を持つ肥料として好評を頂いております。今後も一段と技術力を結集し、農業の発展に貢献できますよう、新肥料の開発、栽培技術の研究等に最大限の努力を致すつもりでございます。皆様方の絶大なるご支援とご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

「農業と科学」も、お蔭をもちまして本号で第85号となりました。本誌は肥料を中心に企画致してはおりますが、これにとらわれることなく、広く農業技術全般にわたって編集してまいり、幸い好個の文献、資料として予想外の好評を頂いております。発行者と致しまして、これに過ぐる喜びはございません。これはひとえに皆様方の長年にわたるご愛読、ご支援と、ご執筆下さいました諸先生方のご協力のお蔭と、深く感謝しております。

今後、一層内容を充実し、少しでも皆様のお役に立つよう努力したいと存じますので、何卒自由なご意見とご批判を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様方のご多幸とご繁栄をお祈りして新年のご挨拶と致します。

<目次>

- § 独自の製品を開発して
農業の発展に貢献を期待……………(1)
チッソ旭肥料株式会社 三戸二郎
代表取締役社長
- § これからの農業技術について想うこと……………(2)
農林省農業技術研究所長 江川友治
農学博士
- § アジアにおける有機肥料について……………(5)
(FAO/SIDAアジア有機肥料研究会に出席して)
農林省農業技術研究所 栗原淳
肥料製造研究室長
- § 砂地農業とコーティング肥料の可能性……………(7)
静岡県農業試験場 川口菊雄
海岸砂地分場